

純粋倫理は「実践により直ちに正しさが証明できる生活法則（すじみち）」です。物事は理論や理屈でわかることもありますが、やってみて初めてわかる事柄も少なくありません。純粋倫理は、多くの人々の長年にわたる実践体験を通して導き出されたものであり、いつ誰が行なっても常に正しく、それを守ることで確かな幸福と繁栄を手中にできる万人幸福の生活法則です。実践はありのまま、そのままに実践することが幸福に至る近道ですが、更にその時の心持ちが重要になってきます。

純粋倫理は行為する人の外形ではなく、内面の心のありよう、気持ちの持ち方に基づくとともに、きわめて大きな特色がある。心（気持ち）の持ち方で行動が変わる。行動が変われば、事の成り行きも変わってくる。人の出会いが変わり、境遇や運命までも変わってくる。倫理経営は、心の生活法則（純粋倫理）に基づいた経営であるゆえに「心の経営」と呼ぶことができる」（倫理経営原典）

東日本大震災から三カ月半が経過しました。その間、身を挺して津波から人々を守った住民、福島原発で命がけの作業を行なう作業員、忍耐強く秩序を守り自力で立ち上がるうとする人たち、苦しい中であつて思いやりと助け合いの心を行動で示す被災者がいます。

静岡県で小売販売業を営むA氏は、義援金を送ると共に、家族を亡くした被災者の叫びをテレビ等で見聞するうちに、自らの家族への感謝と懺悔の念が込み上げてきました。

倫理を学んで数年。妻や子供への感謝の気持ちを自分は本気で伝え、そして詫びたことはあったらどうか。形だけでなかったらどうか。A氏は妻に向き直り、姿勢を正してこれまでの感謝を伝え、そして至らぬ夫であつたこ

我が「一生の宝」を 足下から掘り起こす



映 栗木 栄

とを深く詫びました。氏は溢れくる感情を抑えることができず、いつのまにか号泣していました。感情が収まると何とも言えない清々しさが心を被い、改めて妻を見るとその目からは大粒の涙がこぼれています。そして妻の口から「あなたの気持ちが変わりました。これからもよろしくお願いします」という思いがけない言葉が出たのです。後日談ですが、妻は離婚届を引き出しに忍ばせていたそうです。A氏は倫理の学びでいつも聞いている「自分が変われば相手が変わる」を痛感したといえます。

気づきや思いを実践に移した時、気づきや学びは深みと広がりを持ち、感動の記憶として奥深くに刻まれて一生の宝となります。さらには、この一つの体験で止まることなく、得た感動を新たなエネルギーに変えて継続して行ない、喜びと感動を深めるところに、倫理実践の醍醐味があります。

純粋倫理の実践に終りはない。実践すればするほど幸福はあふれ、喜びは深くなる。そこに限度というものはないのだ。もし役に立たない生活倫理などは実践しなくてもよいと考えるなら、それは誤りだ。純粋倫理は、功利的な願いで実践するのではなく、実践するのが当然だから実践する。何も考えずに、そのまま実践する。そこに自然に幸福がともなう。それを一般的に「活かした実践」と言う。生活倫理の活性化と言ってもよい。この実践には、限度と言うものはない。

（丸山竹秋選集）

自身の言動を真摯に掘り下げ、日々の気づきを実践として形に落とし込み、明朗・愛和・喜働の精神を高めていきましょう。「一生の宝」は私たちの足下にあるのです。